

サルボウ採苗予報調査

川名 拓里・川崎 北斗

有明海佐賀県海域で重要な二枚貝であるサルボウは、春季から夏季にかけて、佐賀県中西南部のノリ養殖漁場とほぼ一致する漁場で漁獲されている。

サルボウは例年6月から8月にかけて産卵し、孵化した幼生は海水中を一定期間浮遊した後、海底面付近の基質に付着し、成貝へ成長する。現在、漁業者はサルボウ稚貝を効率よく定着させるため、メダケやメダケ基部にヤシの実繊維を固定した採苗器（以下、パーム竹）を設置している。

当センターでは、漁業者が採苗器の設置時期を判断するのに有益な情報を提供するために、1974年から漁場内での浮遊幼生の発生状況と稚貝の付着状況を調査している。今年度も同様の調査を実施したので報告する。

方法

本調査はサルボウの浮遊幼生が出現し始める6月から8月にかけて、図1に示す5定点において原則として、毎月3回の頻度で実施した。



図1 調査定点

1. 水温、比重

多項目水質計（JFEアドバンテック社、ASTD102）を用いて水温と塩分の水質データを収集した。比重（※）は塩分データをもとに算出し、漁業者が慣用する記載方法で表記した。平年値は、平成6年から令和5年までの30年平均を用いた。

※比重:有明海沿岸の漁業者が慣用的に用いる値。

ここで記載の比重20は、実際には1.020。

2. 浮遊幼生

北原式定量プランクトンネット（目合100 μ m）を用いて、底層（B-1m）から表層までの鉛直曳きで採取した。試料はグルタルアルデヒド固定後実験室に持ち帰り、光学顕微鏡を用いて外部形態から同定し計数した。平年値は、平成6年から令和5年までの30年平均を用いた。

3. 付着稚貝

パーム繊維を10gの束にしたもの（以下、パーム）を、図2のように海底面付近に設置した。パームは調査日に新しいものと交換し、回収したパームはグルタルアルデヒド固定後、実験室に持ち帰り、付着した稚貝を光学顕微鏡および実体顕微鏡を用いて外部形態から同定し計数した。平年値は、平成6年から令和5年までの30年平均を用いた。

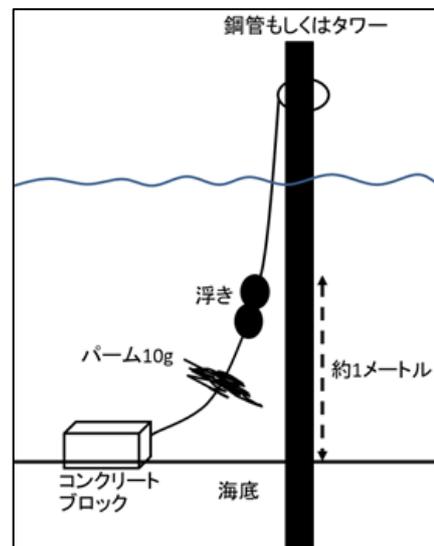


図2 採苗器概要図

結果

1. 水温, 比重

調査期間中の底層水温は20.6~28.2℃ (図3), 底層比重は8.8~21.8 (図4) で推移した。今年度は6月下旬から7月中旬にかけてまとまった降雨があり, その結果底層比重の著しい低下がみられた。

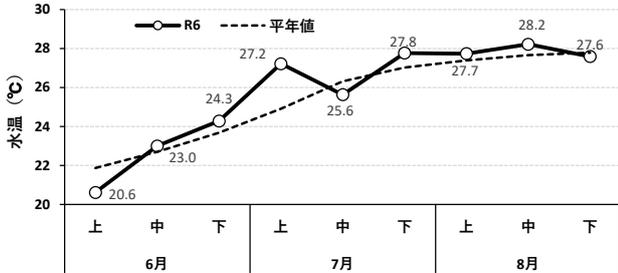


図3 底層水温の推移

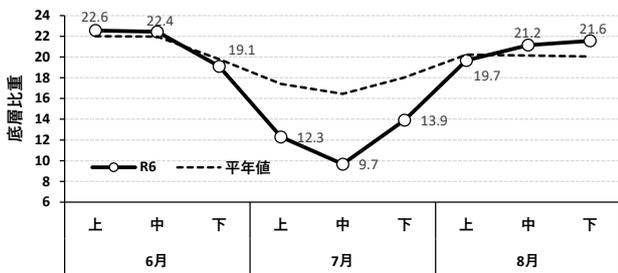


図4 底層比重の推移

2. 浮遊幼生の出現推移

浮遊幼生は, 7月下旬までは平年よりも極めて少なく推移したものの, 8月上旬には今年度最多となる1,600個/m³が確認され, 平年と同程度となった (図5)。幼生数が平年よりも少なく推移した理由として, 令和6年2月下旬時点の佐賀県海域のサルボウ資源量は41.7トンで, 産卵母貝が少なかったことが考えられた。一方で, 8月上旬に増加がみられたことについては, 7月の降雨による産卵刺激により放出され沖合へ流されていた幼生が, 河川水の影響が平常に戻るとともに沖合から押し戻され, 沿岸域で確認されるようになった可能性が考えられた。

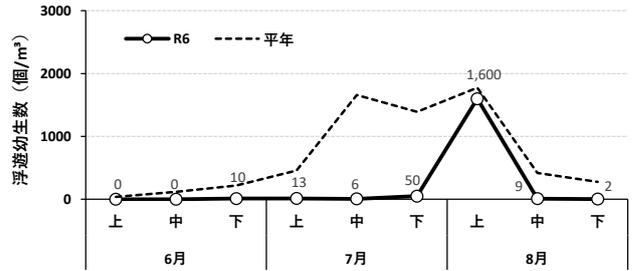


図5 浮遊幼生の推移

3. 付着稚貝の出現推移

付着稚貝は, 8月上旬までは極めて少ない状況であったものの, 8月中旬には231個/パーム10g/日と, 平年と同程度まで増加した (図6)。これは, 前述の浮遊幼生の増加によるものと考えられた。

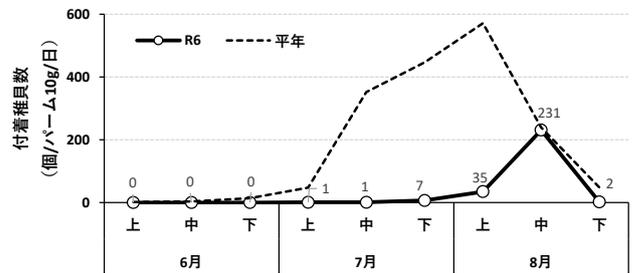


図6 付着稚貝の推移

4. サルボウ採苗情報

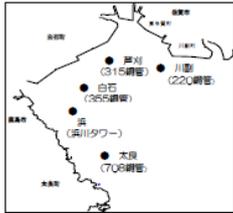
本調査結果については, 毎調査後に漁業者へ情報提供を行うとともに (第1報~第9報), 当センターのホームページにも公開した (図7)。

令和6年度サルボウ採苗情報 (第9報)

令和6年9月4日(水) 佐賀県有明水産振興センター

今年度のサルボウの産卵期は終了したと考えられます

調査日	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年9月4日 (水) ※8月下旬の調査は台風により本日に延期しています。
浮遊幼生	<ul style="list-style-type: none"> 浮遊幼生数は0~9個/m³と少なく、今年度の産卵はほぼ終了したと考えられます。 平年値と比較すると、今年度は全体的にかなり少ない状況でしたが、8月上旬には平年並みとなり、一定量の産卵が行われたと思われます。
付着稚貝	<ul style="list-style-type: none"> 付着稚貝数は、0~3個/ℓ-410g/日で、前回調査時より減少しています。 平年値と比較すると、今年度は全体的にかなり少ない状況でしたが、8月上旬に多くの浮遊幼生が確認されたことにより、8月中旬に平年並みの付着稚貝数となったと思われます。
水温	<ul style="list-style-type: none"> 底層水温は平均27.6℃で、平年並みです。
比重	<ul style="list-style-type: none"> 底層比重は平均21.6で、平年よりやや高めです。
次回調査	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のサルボウ採苗調査は今回で終了します



調査地点図

表1 調査結果

平年値：H6~R5の旬別平均

地点	① 浮遊幼生数 (個/m ³)		② 付着稚貝数 (個/ℓ-410g/日)		③ 底層水温 (℃)		④ 底層比重	
	R6 8月下旬	平年値	R6 8月下旬	平年値	R6 8月下旬	平年値	R6 8月下旬	平年値
川副	0	435	0	20	27.3	27.6	21.5	20.0
芦刈	9	80	1	84	27.6	28.0	21.5	19.5
白石	0	168	1	80	27.4	27.9	21.7	19.9
浜	0	394	3	31	27.8	27.9	21.6	19.7
太良	0	301	2	23	27.9	27.5	21.5	21.1
平均値	2	276	2	48	27.6	27.8	21.6	20.1

図1 浮遊幼生数の推移 (5地点平均)

平年値：H6~R5の旬別平均

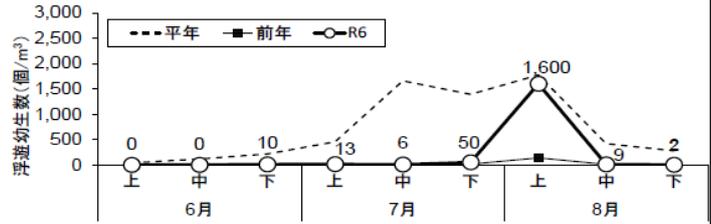


図2 付着稚貝数の推移 (5地点平均)

平年値：H6~R5の旬別平均

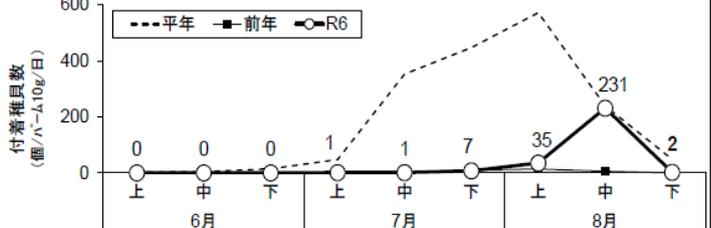


図7 令和6年度モガイ採苗情報 (第9報)